

平成 22 年度 府立旭高等学校 学校評価報告書

府立 旭高等学校
校長 一色 千賀子

1 めざす学校像

夢と希望を持ち入学する生徒が達成感と充実感を深め、自己の未来を切開く力を身につける学校として以下の育成を行う。
①自主的、自律的態度、協調・友愛の精神を育てる。
②進路への適格な判断と実現のための実力を育成する。

2 本年度の教育目標

- ①基本的な生活習慣の確立
- ②自己実現の支援の質の向上
- ③国際理解教育の質の向上
- ④保護者、地域から信頼される組織力の向上

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成 22 年 4 月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	①新学習指導要領の理科・数学先行実施教育課程を編成する。 4月～10月 教育課程委員会で検討する。 その間教科との調整を図る。 12月以降 校内で共通理解があることを確認する。 ②基礎学力向上のための講習・補習の実施 ・放課後、長期休業中に講習、補習を実施する。 ・土曜講座を実施する。 ③国際理解教育の推進 ・姉妹校3校との本校で国際交流を実施する。 ・長期・短期の海外からの生徒の受入とより多くの本校生徒に多文化理解の機会を与える。	①理科学習を中心とした改定を教育課程委員会と教科間の共通理解を図り編成する。12月までに作業をほぼ完成し、3学期に共通理解を確認できた。 ②1年生は9月から2月の間国語、数学、英語で土曜講習を実施する。2年生は4月から3月の間社会、数学、英語で土曜講習を実施する。また、各教科で必要に応じた講習、補習を実施する。基礎学力の向上と進路実現に向けた目標設定に役立てることができた。 ③長期留学生4名の受け入れ、姉妹校3校から総計30人が来日し国際交流(7月ドイツ、8月オーストラリア、11月タイ)を実施する。生徒、PTA国際交流委員、ホストファミリーと参加者の輪を広げることができ、貴重な体験学習を提供できた。	○平成25年度実施の教育課程編成 ○授業見学と意見交換 ○さらに多くの生徒が参加できる国際交流
(2) 生徒指導等	①遅刻・挨拶・服装指導を年間を通して粘り強く実施する。 ・登校前の校門指導を生活指導部と学年が連携して実施する。 ・ルールを守る態度を身につけさせるために必要に応じて指導する。 ②学年ごとの段階を追った進路指導を行う。 ・より高い目標に向けてチャレンジする生徒を育成する。 ・進路HRや進路通信を通して自ら進路を考える態度を育成する。 ・学習到達度テストや模擬試験の実施でチャレンジ精神の育成を図る。 ③学校行事を通じた自他を尊重できる集団づくり。 ・縦割りの団編成による体育祭での応援合戦の企画・立案・練習・実施。 ・クラスを中心とした文化祭企画への参加。 ・2年生の海外修学旅行の実施。	①年間を通じた登校時の校門指導、生活指導部と学年の連携したねばり強い指導を実施できた。遅刻数は昨年の3割減を達成する。(年間3,717→2,617) ②1年生の大学見学、2年生・3年生の大学及び専門学校の模擬授業を実施する。定期的な進路通信による情報提供や動機付けを粘り強く実施する。1年生、2年生の年度末における模擬試験挑戦者数が増加した。 ③学校教育自己診断の生徒の「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答率からも集団の行事で達成感を得ている。 文化祭は楽しく行えるよう工夫されている・・・81% 体育祭は楽しく行えるよう工夫されている・・・89% 修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている・・・72%	○「遅刻0の日」実現 ○自学支援体制の確立 ○行事と学習の両立
(3) 学校運営等	①生徒による授業評価を各科目について実施する。 ・1学期 授業評価実施に向けた教育課程委員会での準備 ・2学期 授業評価実施とその結果を基にした各教科での検討 ②広報活動の充実 ・中学生体験入学の2回実施 ・全教員による中学校訪問 ・中学生及び保護者の学校見学の随時受け入れと出前授業の実施 ③緊急事態発生時の対応 ・校内指示系統の明確化 ・緊急時の校内情報の共有化と迅速な対応体制づくり	①9月から10月に全科目に対する生徒の授業評価を実施する。のべ12,472人について授業理解に対して肯定的な回答は64%、授業満足に対して肯定的な回答は68%である。 ②予定した取り組みを全て実施し、前期入学者選抜志願者159人(帰国生8人を除く)、昨年度1.85から1.99倍へ増加する。後期入学者選抜志願者291人、昨年度1.22から1.21倍にやや減少する。 ③不測の事態に対して校内の共通理解を深め迅速に対応することができた。	○生徒の授業満足度を高める
(4) 追加項目			

4 学校教育自己診断における結果と分析

[平成 22 年 12 月 実施分]

*実施対象 (教職員 ・ 児童・生徒 ・ 保護者 ・ その他)
・生徒と保護者の評価は類似している。
・「学校に行くのが楽しい」「自分の学級は楽しい」の肯定的評価は80%を超える。
・「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的評価は40%で昨年度あまり変化がない。
・「授業全体の満足度はどうですか」に対して満足7%、どちらかという満足である52%という傾向も昨年度からあまり変化していない。
・「あなたの後輩に旭高校への進学を勧めたいと思いますか」に対して肯定的な評価は76%
・アルバイトをしていない(71%)が日頃の家庭学習時間は少ない。
◎ 授業改善の継続と生徒の家庭学習時間の確保を学校全体として取り組む必要がある。

5 学校協議会における提言内容

*実施日 第1回(7月6日)第2回(2月2日)第3回()
*委員構成 4人(PTA会長、卒業生保護者代表、中学校長、学識経験者)

*内 容
・学校の基本として、遅刻指導など生活のけじめをつけることが重要である。そのためには保護者の協力も必要である。
・クラブ顧問や学年の先生の声かけ、「褒める」等が子どもを大きく成長させる。よい面を伸ばす工夫し生徒を育成してほしい。
・国際交流で多様性を感じることができるのは貴重な経験である。
・生徒の進路実現に向けて実力の把握は重要である。公立高校からの大学進学者は、大学進学後の「のびしろ」が大きい傾向が見受けられる。公立高校は自信を持ち生徒のレベルアップに努めてほしい。